



かぞくのひととはなしをしよう!

普段、親子で話す時間はどれくらいありますか。親も子どももそれぞれだしく、なかなか話す時間もないかもしれません。でも、子どもは親と話すのが大好きです。今日あったこと、装達とのこと、趣味のこと、話したいことがたくさんあります。限られた時間の中で多くのことは話せないかもしれませんが、毎日荷か一つだけでも親子で話してみましょう。たとえ短い時間でも、毎日話すことが、矢切な親子のコミュニケーションとなります。◆

親子で話したいと思っても、その時間をわざわざつくるのは難しいかもしれません。でも大丈美です。普段の生活の節で話す機会をもてば、自然と話す時間はできるものです。

こんなときに話しましょう

- ○食事の時間
- 〇お嵐名に親子で入る時間
- ○希前に入って譲るまでの時間

他にも「鎹り逆えの時間」「ペットの散歩の



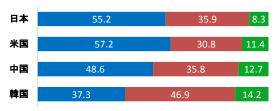
時間」など、話せるタイミングはたくさんあります。毎日の 生活の中で、ゆったり楽しく 親子で話をしましょう。



日本の子どもは親と話すのが好き!

平成29年度に、日本、米国、中国、韓国の小中では、29年度に、日本、米国、中国、韓国の小中では、20世界を対象として実施された国際比較調査によると、日本の小学生の9割強が「現ではないが好き」と回答し、4か国中最も高いという結果が出ました。

親(保護者)と話すのが好きですか【小学生】



■とても好き ■まあ好き ■「あまり好きではない」「好きではない」

また、小学生が話している内容は、

- ①学校のこと ②友達のこと ③勉強のこと
- ④趣味や自分の好きなこと
- ⑤社会の出来事やニュース
- ⑥自分の将来のこと の順でした



【出典】インターネット社会の親子関係に関する意識調査報告書 、 -日本・米国・中国・韓国の比較-(国立青少年教育振興機構

字どもが話をしてきたら、しっかり茸を慣け、「そうなんだね」「良かったね」などとあいづちをうちながら大切に聴きましょう。たとえわずかな時間でも、親が字どもの話に関心をもって聴き、親子で心から楽しみ、其に考える時間になれば、字どもの心は満たされます。そして、字どもは親の愛情とともに、自分が認められていることを懲じ、親への信頼感を深めていきます。家庭が信頼でき安心できる場所となれば、思春期になり、たとえ親と話すことが少なくなっても、字どもは家庭を心の拠り所としながら、少しずつ自立への一歩を踏み出していけるようになるでしょう。

字どもが親に荷でも話してくれる時期はそんなに覧くはありません。家族で会話できる矢切な時間を、親子で一緒に楽しみましょう。

